



｜ 特集 ｜

総合型クラブとボランティア

総合型クラブとしてのボランティア活動

横浜マラソンの給水所でランナーをバックアップ

一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク(略称：KSN)
横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

去る3月15日に23,430人の参加をもって開催された「横浜マラソン」では、「一般社団法人 神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク(略称：KSN)」と「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」が神奈川県内の総合型クラブへボランティアを募集しました。そして、12のクラブから194名の参加を得て、給水所でのボランティアを行いました。そこで今回は、他クラブにおいてもボランティア活動実施を検討する契機となることを目的として、参加に至った経緯、当日の活動の様子、参加しての成果などを公益財団法人神奈川県体育協会のクラブアドバイザーの内田佳彦氏にお話を伺いました。

🔑 キーポイント

- ◎支える喜びを肌で実感できる
- ◎経験することで活動の場が広がる

1 | 実施経緯・ボランティア募集にあたって

横浜マラソンでのボランティア活動参加が決まったのは平成26年4月でした。横浜マラソン組織委員会からの依頼を受けて実現しました。依頼がきた要因としては、2012年より世界トライアスロン大会エイジの部(一般)の給水所を神奈川県内のクラブがボランティアとして参加してきた実績が評価されたことによります。そして、「横浜マラソン」には横浜市連絡協議会とKSNが連携してボランティアの参加募集を行い、若葉台文化スポーツ・文化クラブ、弘明寺くらぶ、都築スポーツランナー竹の子会をはじめ12クラブ(下記表1参照)から、194人(下記表2参照)が参加しました。

■参加条件

- 年齢：原則高校生以上。作業に支障がなく、リーダーが管理できるのであれば小学校高学年でも参加可能
- 交通費・食費：支給なし
- 集合・離散：公共交通機関を利用すること。配置場所がアクセス困難な場合、主催者が用意するシャトルバスの利用が可能

2 | 当日の取り組み

3月15日の横浜マラソン当日はフルマラソンの選手への給水として用意された18か所の給水所のうち、第3給水所（本牧ブロック8.1km地点／6クラブ参加）と第4給水所（三溪園ブロック10.6km／6クラブ参加）の2か所を担当しました。集合は朝の6時30分でした。大会主催者側から簡単な指示は出ましたが、内容に具体性が欠けていたためボランティアの皆さんには戸惑いが見られる場面がありました。その上、道路の交通規制が始まるまで何もできない時間帯もありました。しかし、幸い各クラブのリーダーがイベント慣れしていたため、テーブルの上にコップを並べたり、水の準備など、臨機応変に対応することができ大きな混乱もなく無事終了することができました。

■当日業務

- 担当業務：給水所2か所（第3給水所・第4給水所）
- 給水所：1か所につき6ユニット（班）で担当
- ユニット（班）：15名から20名で1ユニットを構成。リーダーはうち1名。1つのクラブで1ユニットを構成

■男女別・年齢別参加者内訳（表2）

年齢	～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	合計
男	1	36	7	8	9	14	14	12	11	112
女	1	6	3	5	14	31	8	8	6	82
合計	2	42	10	13	23	45	22	20	17	194

■参加クラブ及び人数（表1）

	クラブ名	人数
第3給水所	KAZU SPORTS CLUB	21
	NPO法人かながわクラブ1	17
	弘明寺くらぶ	16
	NPO法人かながわクラブ2	12
	NPO法人クラブテアトロ	21
	NPO法人わくわく教室	10
	給水所合計	97
第4給水所	NPO法人横浜かもめanimaクラブ	21
	都筑スポーツランナー竹の子会	20
	NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ	17
	川崎SELFチーム	14
	中原元気クラブ	13
	（一社）寒川総合SC・城下町SC	12
	給水所合計	97
合 計		194



横浜マラソン当日のボランティアの活動の様子



コップに水やスポーツ飲料を入れて準備万端



子どもたちもボランティアの仕事を体験

3 | 成果と課題

今回ボランティアとして参加した皆さんは、初めてこうした活動を行った人たちが多く、「こういうスポーツの楽しみ方があるのだ」と知っていただけたことがまず成果の一つにあげられます。ボランティア活動後に集めた参加者アンケートの回答にも「すごく楽しかったです」「来年もやりたいです」という意見が相当数あり、支える楽しみを肌で実感してもらうことができ、次につながるものとなりました。

しかし、その一方で問題もありました。当初は3か所の給水所の実施を考えていましたが、応募クラブ数が予想を下回ったため2か所となりました。メール配信のみの募集案内だったことも原因の一つにあげ



られ、周知が不十分だった感は否めません。そして、もう一つの問題点としては、当日の活動がスムーズにいかない時間帯があったことです。そのため、「選手が来るまで準備にバタバタしてしまった」と、参加者からのアンケートにも意見が寄せられるなど、事前準備や情報共有の重要性が浮き彫りになりました。

4 | 総合型クラブがボランティアを行うメリット

今回の横浜マラソンのボランティアでは、クラブ側・大会運営側双方にメリットがありました。総合型クラブ会員にとっては、クラブに加入することにより、今回のような大きなスポーツイベントでボランティア活動を行うことができるというメリットがあります。また、クラブとしても、このようなスポーツボランティア活動をクラブのセールスポイントにすることができ、人材育成の場として活用することもできます。

一方で、運営側の組織委員会にとっては、一般公募でボランティアを集めることより、総合型クラブに依頼をした方が連絡等の事務作業の効率が上がり、労力が少なくできるというメリットがありました。

5 | 活動を継続することで2020年につなげる

最初はボランティアをやって楽しかったというのでもいいのですが、2回目からはスキルアップへつなげることが重要となります。そのためにもコアスタッフになり得る人材を見つけて、どんどん活用していくことが大切です。そして、2020年東京オリンピック・パラリンピックの時には総合型クラブからも人材を送り込めるようになり、ボランティアの質が向上し、「日本のボランティアは素晴らしい」と世界中から来る人たちに思ってもらいたいです。これからも毎年参加して、業務内容のハードルを上げていき、他のスポーツイベントへと活動の場を広げていきたいと思っています。

6 | 人脈づくりがクラブの発展につながる

今回のようなボランティア活動の場を広げるためには、まず人脈をつくるのがポイントとしてあげられます。競技団体やイベントの組織委員会などにルートを見つけて、現場レベルで交流を深めることが大切です。総合型クラブを運営している方は連絡協議会などにどんどん出て行き、人間関係を広げていくことによって、ボランティア活動に限らずクラブを発展させることにもつながっていくのではないのでしょうか。

一般社団法人

神奈川県総合型スポーツクラブネットワーク

連絡先：〒213-0011 神奈川県川崎市高津区久本3-11-2

NPO法人高津総合型スポーツクラブSELF内

TEL：044-833-2555 FAX：044-833-3006

E-mail：jimukyoku@kanasponet.com

ホームページ：<http://www.kanasponet.com/>

横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

連絡先：〒241-0801 神奈川県横浜市旭区若葉台4-34-1

NPO法人若葉台スポーツ・文化クラブ内

TEL：045-921-0404

ホームページ：<http://www2.yspc.or.jp/ysa/sougougata>